



福岡県におけるカキ病害虫防除暦作成の考え方

福岡県農林業総合試験場 清 水 信 孝

はじめに

福岡県は九州各県で生産量の多いカンキツ類だけでなく、カキ、ナシ、ブドウ、キウイフルーツ、イチジクといった落葉果樹の栽培も盛んである。このうちカキは2023年における栽培面積が1,070 ha、生産量は15,100 t（農林水産省、2025）となっており、県内で栽培されている落葉果樹の中で最も多い。本県におけるカキ栽培の歴史は古く、大正初期には現在でも主要な品種である‘富有’の営利栽培が始まっており（斎藤・林、1993）、戦後は県南部の筑後川流域を中心に栽培が盛んに行われるようになっていった。現在、‘富有’をはじめ‘早秋’や‘太秋’、福岡県が育成した‘福岡 K1 号’（商品名「秋王」）など多くの甘ガキ品種が生産されており、全国的にも有数のカキ生産地として位置付けられている。

高品質な農作物を安定して生産するためには病害虫防除が欠かせないが、この対策を適切に行っていくうえで病害虫防除暦は重要な役割を果たしている。ここでは、福岡県におけるカキ病害虫防除暦作成の考え方について紹介する。

I 福岡県におけるカキ病害虫防除暦

福岡県では県内で栽培されている主な品目について防除指針に当たる「病害虫・雑草防除の手引き」を県の各組織（行政、普及、研究）で構成するメンバーで作成し、福岡県庁ホームページ上で公開している（福岡県農林水産部、2024）。この「病害虫・雑草防除の手引き」には県内で発生が見られる主要な病害虫の発生生態や防除法（いわゆる各論）に加え、防除方法に関する試験研究成果（病害虫の発消長、病害虫防除暦を含む）、農薬一覧が掲載されており、毎年更新されている。果樹では11品目を取り扱われており、このうちカキなど6品目については病害虫防除暦が作成されている。なお、県が作成している病害虫防除暦では防除時期ごとに基幹防除

対象病害虫と補正防除対象病害虫のみが示されている。

一方、県内の各産地では地域の指導機関（JA、普及指導センターなど）によって病害虫防除暦がそれぞれ作成され、毎年改訂されたものが産地内のカキ生産者に提供されている。産地の病害虫防除暦は県が作成した「病害虫・雑草防除の手引き」に基づきながら、産地内における病害虫の発生状況や農薬の防除効果等を勘案して作成されている。また、防除時期や対象病害虫だけでなく、各時期に使用する薬剤名や防除上のポイント等が掲載された、カキ生産者にとってより具体的で使いやすい内容となっている。

II 対象病害虫

福岡県におけるカキの主要な病害虫として、病害では炭疽病、うどんこ病、落葉病類が、虫害ではフジコナカイガラムシ、カキノヘタムシガ、ハマキムシ類、果樹カメムシ類が挙げられる。このうち炭疽病とフジコナカイガラムシが最も問題になることから、県や各産地が作成するカキ病害虫防除暦はこれら病害虫を最も重要な防除対象に位置付けて作成されている。

III 防除暦作成のポイント

福岡県が作成する「病害虫・雑草防除の手引き」に掲載されている病害虫防除暦を基に、試験研究成果や各産地の防除暦を参考に加筆したカキ病害虫防除暦を表-1に示す。この病害虫防除暦作成に当たっての考え方を以下に解説する。なお、本稿に記載の薬剤は2025年4月時点の登録内容に基づいている。

1 炭疽病

福岡県で栽培されている主要なカキ品種はいずれも炭疽病が発生しやすい。このため、カキ病害の防除体系は炭疽病を主体として構築されている。

本病は主に前年の罹病枝上で越冬する。この越冬病斑上に形成された胞子が一次伝染源となり、雨水の飛沫に伴って新梢や果実に飛散して感染する。これによって新しく形成された病斑からも胞子が形成され（二次伝染源）、同様に飛散して伝染を繰り返す。本病の感染には気

The Concept of Japanese Persimmon Pest Management Calendar in Fukuoka Prefecture. By Nobutaka SHIMIZU
（キーワード：カキ、病害虫、福岡県、防除、防除暦）